



監督＝ナイジェル・コール／出演＝ヘレン・ミレン／ジュリー・ウォルターズ／シアラン・ハインズ（ブエナ ビスタ インターナショナル〈ジャパン〉配給）／2003年イギリス映画／108分

この映画は1999年、イギリスの小さな田舎町で本当につくられた「カレンダー」の物語。女性連盟に加入する中年（老年？）のオバさんたち。何とこのオバさんたちが、12枚のカレンダーをヌードで飾ろうというわけだ。果たしてその動機は？ またその出来は？ ちょっと感動的なオバさんたちの物語だが……。

♣️ 女性連盟のオバさんたち

この映画の舞台は、イギリスのヨークシャーにある小さな田舎町、ネイプリー。「女性連盟」とは「自己啓発と娯楽と親睦」をモットーとする女性だけの会。「ロータリークラブ」のようなものだが、そこに参加するのは一般の主婦とはいっても、やはりある程度お金や時間的に余裕のある人たちだろう。少なくとも支部長のマリー（ジェラルディン・ジェームズ）や全国大会での会長さんたちを見ているとそう思う。

もっともこのネイプリーという田舎町の「女性連盟」の会員である、主人公のクリス（ヘレン・ミレン）とアニー（ジュリー・ウォルターズ）はわりと普通の主婦のよう。クリスの夫ロッド（シアラン・ハインズ）は花屋さん。そしてクリスは、あまり真面目な会員ではないため、「女性連盟」の理念どおりに会を運営しようとする支部長のマリーとはウマが合わない様子。

他方、アニーは、その夫のジョンが白血病で余命いくばくもないことがわかり、大ショック。そして看病の甲斐なくジョンは死亡。そこでクリスたちは、

「女性連盟」が毎年制作するカレンダーの収益で、病院へ寄付することを提案した。そして、思い切った収益をあげるために思いついたのが、何と、女性連盟のオバさんたちをモデルにしたヌードカレンダーの制作。1月から毎月1人ずつのモデルが、そして12月にはモデル全員が登場してクリスマスの写真を、というものだが……。

日本でも「熟年ヌード」なる企画に何人かが登場した！ 私はその中でも○○や△△はまずまずだったが、△△や○○はさすがに願い下げ。やっぱりヌードは若くてピチピチとした女の子の方が、と思うのは当たり前……。

これはホントの物語

パンフレットによると、この「女性連盟」によるオバさんたち（失礼！）をモデルとした2000年用のヌードカレンダーを発売したのは1999年4月。このニュースはイギリスのあらゆるメディアで取り上げられ、その話題はアメリカへも渡り、ハリウッドでも話題沸騰となった。そして当初500部印刷されたカレンダーは、最終的に30万部販売され、莫大な収益をあげたうえ、この映画化の話にまで発展したというわけだ。

このカレンダー事業と映画化による収益は白血病の基金に寄付されたというホントの物語だそうだ。

ヌード撮影会は大変！

熟年、中年、老年（？）女性のヌードの撮影会は大変。でもたしかに、この映画のヌードカレンダーの写真はよく出来ている。この完成に向けて努力したカメラマンの感性と撮影テクニックは大したものだ。もっとも、その撮影風景をここで延々と解説しても、全く意味がないので、それは一切省略だ。

完成したヌードカレンダーは大反響！

田舎町のネイプリーではあまり大きなニュースがないのかもしれないが、完成したヌードカレンダーの反響は予想を上回る大変なモノ。当初印刷したのは500部だったが、増刷につぐ増刷。そのうえ新聞、テレビからの取材が殺到し、オバ

さんたちはたちまち「時の人」に。

さらにすごいのは、彼女たちがコマーシャルの撮影のために、アメリカのハリウッドに呼ばれたこと。もちろん費用はすべて向こう持ち。飛行機はファーストクラス、ホテルはスイートルームとビックリすることばかり。ヌードカレンダーの撮影に反対していた支部長のマリーやモデルとなったオバさんたちの家族も、この現実を認めざるをえなくなったが……。

いいことばかりじゃない！

普通のオバさんたちが急に「スター」になれば、有頂天になるのも当然。なぜなら、誰だってそういう「欲求」があるのだから。しかし、そこから、この家族、あの家族にいろいろな亀裂が生じ、新たにさまざまな人生模様が生まれてきた。

第1は、リーダーであるクリスの家庭。ヌードカレンダーのために忙しく飛び回り、母親が自分にかまってくれなくなったことに反抗する思春期の息子。そしてまた、真面目に花屋を経営している夫のロッドは、クリスの活動を応援しながらも、花屋の仕事の手伝いができなくなったクリスについて不満を……。そしてロッドは地元記者からのインチキ取材にまんまとひっかかり、新聞に「ヌードカレンダーモデルの妻とはセックスレス」というヤラセ記事が載せられる始末。これでは、夫婦仲に亀裂が生ずるのも仕方がない。

第2に、結果的に良かったケースは、夫がどうも最近出張ばかりで忙しく、自分のことをかまってくれないルース（ペネロープ・ウィルトン）の家庭。夫を残して、1人ハリウッドに行くことを躊躇していたルースは、夫が出張名目で不倫をしていたことを自分の目で確認したため、逆に気持ちがふっきれて、意気揚々とハリウッドへ行くことに。

第3に、最大の問題は、ハリウッドでの主役のクリスとアニーとの対決。これは深刻だ。スター気取りで乗り込んで行ったハリウッドでのコマーシャル撮影は、実は予想に反して、ヌードを要求されるものだった。しかもその場でのプロデューサーによる、「ヌードが売りの君たちだから！」「別に減るもんじゃなし！」という言葉に傷ついたアニーは、撮影スタジオを飛び出して行った。そし

て、これを追いかけたクリスは「ヌードカレンダーがこんなに成功したことについて、あなたは私に嫉妬しているの!」と言い放った。

ここまでくると、中年オンナ同士のバトルは大変。もはやその関係は修復不能と私には思えたが……。

その他、ヌードカレンダーに登場したオバさんたちには、それぞれの試練が待ち受けることになったのは当然だろう。

笑い、涙、感動の3要素

この映画には「笑い」「涙」「感動」という3つの要素がタップリ。

まず「笑い」は、

①「女性連盟」の品評会にスーパーで買ったケーキを出品してまんまと優勝するクリスの悪知恵(?)

②ヌードカレンダー制作の決定に向けたオバさんたちの心の葛藤

そしてメインの「笑い」は、

③その撮影風景の面白さ

次に「涙」は、

①ヌードカレンダーの反響が予想に反してビックリ状態となった時

②マスコミ報道によってヌードカレンダー制作の意図を知った多くの人から、白血病と闘う勇気や女としての生きる勇気を得たという手紙の束を見た時

そして「成功」は、

①クリスと夫のロッドとの仲直りシーン

②クリスとアニーとの仲直りシーン

このように1時間48分という時間の中に、バランスよく3つの要素が取り入れられている珠玉の作品。いい映画だ。しかし、スケベ親父としては、しつこいようだが、やっぱり最後にひとこと言っておきたい。やっぱり、ヌードは若い女性の方がいい……。

2004(平成16)年3月4日記